

政府が辺野古(沖縄)着工

こんな強権、無法は許されない



共産党・志位委員長が批判

日本共産党の志位和夫委員長は10月29日の記者会見で、防衛省沖縄防衛局が名護市辺野古の米軍新基地建設のための埋め立て本体工事の「着工」を強行したことを「民主主義の国で、こんな強権・背信・無法は断じて許されない」と厳しく批判しました。

民主主義を破壊 安倍政権

志位氏は「安倍政権がとっている態度は、沖縄県民の総意を無視した新基地建設強行という、日本の民主主義を根底から破壊する大問題」と指摘。さらに「着工」強行にかかわっても、「民主主義のルールを二重、三重に踏み破る、無法そのもの」として次の3点にわたり問題点を指摘しました。

① 同じ内閣の中で「審査」

志位氏は、翁長雄志知事の埋め立て承認取り消しに対し、防衛省が行った執行停止申し立てを同じ内閣の国交相が審査したことを「猿芝居」「違法行為以外の何ものでもない」と強く批判しました。

② 県との約束も破棄

また、政府が2013年末に本体工事前には県との

事前協議を行うと約束していた事実を指摘。ところが今回政府は、県との約束を一方的に破棄して、本体工事「着工」を強行しました。志位氏は「許しがたい背信行為」と強調しました。

③ 政府答弁も覆す

さらに志位氏は、政府が埋め立てに関する知事の権限を全面的に奪う「代執行」手続きに着手したことを「これは、2013年4月に安倍政権自身が閣議決定した『代執行等を行うことは検討していない』という政府答弁書を覆す暴挙」と厳しく批判しました。



▲防衛局の工事「着工」に抗議の声を上げる座り込み参加者=沖縄県名護市

問われているのは日本の民主主義 新基地建設ノー、安倍暴走ストップ!!

これは沖縄だけの問題ではありません。日本の憲法と民主主義を守るかどうか問われる問題です。翁長知事を先頭に「基地のない沖縄」をめざす沖縄県民の決意にこたえ、ともに声をあげましょう。



参議院(東京選挙区)予定候補
弁護士・30歳
やまぞえ・たく

山 添 拓



都議会議員(北多摩1区選出)
おざき・あやこ

尾崎あや子



ご意見・ご要望は 03-3370-0311、FAX 03-3370-0471

2015年10・11月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

日本共産党